bookwormer

わたしの話をしたいと思います。
わたしと同じように、他人の日常を覗き見ることが好きなちょっと変態チックな人には喜ばれるかもしれない。
そんなことを思って。

　わたし、しょうもない人間なんですけどね。

プライドが高いくせに実力は伴っていない、よく疎まれている人、いるじゃないですか。

わたし、あの人種なんです。人種って呼んでいいのかしら。

ま、自分でもわかっちゃいるんです。何もできないのにプライド高いってのは。

一応はね、これでも努力したことあるんです。資格を取ってみたり、自己分析してみたりしました。

でも、最近気づいたんですよ。確かに資格持ってますけど、自分をそこそこ客観的に見ることもできるけど、

結局わたしには、「なーんにもない」ままなんだって。

　資格を取ろうと思ったのだって、素の自分には何もなかったからだったんですね。

資格という洋服で、のっぺらぼうをごまかそうとしていただけでした。

わかったらなんだかむなしくて、今は資格が名実ともにお飾り。

そしたらもう、わたし本当にしょうもないなって思えて、そこから向上心が薄れたんですよね。

　もういいじゃんってなりました。

それで、わたしはプライド高いだけで何もできないですよってアピールを始めたら、

不思議なことにあんまり嫌われなかったんです。

　逆に、そこまで謙虚さのないやつはなかなかいないっていい意味で褒められたりもして。

わたし、今もしょうもない人間のままです。

誰かの役に立つことなんかできません。でも、以前より一つだけ自分の成長したところがわかりました。

周囲に感謝できるようになりました。

わたし、すごく周りの人に恵まれています。こんなわたしを許容してくれるみなさん、本当にありがとう。

　そんな、しょうもないわたしの話。

　わたし、今更本当の自分ってよくわからないんです。

小学生の時の記憶、ないんですけど、その頃から友人の誰かに八方美人だって

言われていた気がします。今思えば、結構際どい発言ですよね、友人も。

わたしはと言えば八方美人って言葉をよい言葉と勘違いして喜んだのかもしれません。

何せ美人って付きますからね。

そんなことはともかく、それくらいの頃からわたしは態度のコロコロ変わる人間でした。

とても流動的だったんです。はっきり言ってしまえば意志のない子です。

周囲の様子をうかがいながら今に至り、ちょっとしたところでお芝居に関わる機会があったんです。

お芝居をするにあたって、自分を捨てられなくてわたし演技が苦手だったんです。

でも、よく考えてみたら、自分ってなんだろうって。昔から他人の意志次第でどうにでも

なってきたわたしに、自分なんかないなってそこで悟りました。

　お芝居の関係って結構お互いに気を遣わなければいけなくて、一時期すごく自分をだましだまし人に

気を遣うのが苦しかった時があったんですけどね。

　そこでの知人が言ってくれたんですね。素の自分を出せばいいじゃない、って。

彼からしてみれば、いつものノリで口にした言葉かもしれません。

わたし、すごくうれしかった。素の自分で勝負してもいいんだって。でも、わたしには自分がないんです。

知人の厚意を無にしてしまったことに、いまでもとても申し訳ないと思っています。

それからめっきり彼に会う機会もなくなってしまって、それも私の身から出た錆なので言い訳が

立ちません。

でもきっと、いつかどこかで出会ったときは迷わず声をかけてくれるでしょう。

夢をかなえるために、しっかりした自分を持った彼なら。

わたしの憧れたその人が、幸せでありますように。

そんな、いつまでもわたしの尊敬する同胞のはなし。

わたし淋しがり屋なんです。

見えないってよく言われますけどね。自分でも、見えないようにふるまってるつもりなんです。

そうやって、キャラじゃないって周囲にも自分にも思い込ませないと、

どんどん甘えて一人でいることができなくなる気がしているからです。

　わたし、環境に恵まれています。金銭的というよりはやはり、人間に恵まれているんです。

淋しい、と寄りつけば誰かが必ず構ってくれて、言わなくてもなんとなくそういう空気を醸し出してみたりします。

別に常に誰かと一緒にいなくてもいいんです。ただ、常に誰かに想われていると思い込みたい。

だから甘えてしまう。わたしはあなたの大事な人の一人よねって。

　そんな風に、わたしは生きてきました。

でも、最近思うんです。それではだめだと。

誰かに想われる受動的な生き方はもうやめようと、先日ようやく決意しました。

代わりに、今までたくさん注いでもらった優しい気持ちをたくさんの人に返せる人間になります。

わたし、強くなる。支えられる側じゃなくて、支えていける人間になる。

そんな決意をした、この春の話。

　みんな、だいすき。

　誰もが愛されたいと願っていると思います。

嫌われるのは、いやですよね。わたしは少なくともいやです。

ま、こんな性格のせいでどうしても嫌がられることはあります。

でも、幸いなことにたいていの方とは仲良くさせていただいているんです、これが。

ラッキーですね。わかってます。

　ここからがわたしのいけない部分なんですけど、わたしはすごくわがままです。

愛されたら、もっと大事にされたい。

いちばんになりたいって、思ってしまうんです。

　誰かに大切な存在だと思ってもらえているだけでも幸せなはずなのに。

いつしか欲張って、一番大切にされていないなんて考えてしまいます。

　考えてみれば、人と人との関係にいちばんも二番もないはずですよね。

そんなことにこの年になるまで気づかなかったなんてちょっと情けないです。

みんな大好き、でした。

傲慢なわたしの話、　です。